

今週（9月5日から9月9日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、先週までのレート低下基調が落ち着き、一転して緩やかに上昇する展開となった。無担保コールO/N物は、オファーサイドの運用額が減少した事で、レート上昇圧力が掛かる中、引き続き邦銀業態からの調達为中心となった。加重平均レートは、5日の▲0.047%から日を追う毎に上昇し8日には▲0.037%となった。9日は、今積み期間最後の週末3日積みとなる事もあり、レート水準は一段と上昇しての取引となった。

ターム物は、今積み期間の最終日となる16日までのショートタームで▲0.04~▲0.02%程度で出合いが見られた。

日銀当座預金残高は、5日にTB3M物の発行・償還、7日に30年債の発行などが行われる中、各種オペ要因が加わり510兆円台前半で落ち着いて推移した。

また、指値オペが連日オファーされる中、長期金利上昇の影響により8日に行われたオペでは、6月28日以来となる応札が見られた。8日は指値オペが3本オファーされ、そのうちカレント3銘柄が対象となるオペに対し、225億円の応札が見られた。翌9日も指値オペが3本オファーされ、そのうちカレント3銘柄が対象となるオペに対し、327億円の応札が見られた。

●レポ市場

今週のGC T/N物は、出合い水準に大きな変化は無く、概ね▲0.09~▲0.08%程度での推移となった。

SCは、ロールオーバーを中心に幅広い銘柄で取引が見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、週前半は閑散とした状況となるなか、8日に6M物の入札が実施された。12月末越え物である事に加え、円安進行による海外勢の動向や長期金利上昇などの影響もあったと思われ、強めの入札結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでも、堅調な推移となった。9日には、3M物の入札が実施された。前回債(1105回)比ではやや低下したものの、概ね無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、横ばい圏で落ち着いて推移した。

短国買入オペは、6日に前回と同額の1,000億円でオファーされ、やや弱めの結果となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、幅広い業態から発行が行われた。石油、鉄鋼等からは大型発行も実施されたが、その他では小口の案件が多かった事もあり、発行額はさほど伸びず、週間発行・償還総額は、共に5,000億円程度となった。市場残高は、28兆円台を超える高水準での推移が続いている。

発行レートについては、0%から若干のプラス金利での決着が中心となり、横ばい圏での推移となった。

CP等買入オペは、9日に事前予定通り4,000億円で実施された。結果は按分レート+0.002%、平均レート+0.005%と、前回(按分+0.001%、平均+0.022%)比で按分レートは上昇し、2回続けてプラス金利となり、平均レートでは低下となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均(円)	新発10年物 国債利回り(%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
9/5(月)	27,619.61	0.230	140.30	△ 0.047	△ 0.087	5,117,500
9/6(火)	27,626.51	0.235	141.00	△ 0.043	△ 0.086	5,131,700
9/7(水)	27,430.30	0.245	144.12	△ 0.041	△ 0.086	5,122,200
9/8(木)	28,065.28	0.245	144.40	△ 0.037	△ 0.086	5,105,800
9/9(金)	28,214.75	0.245	143.76	△ 0.030	△ 0.083	5,102,900

来週（9月12日から9月16日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/12 (月)					
9/13 (火)	8月の企業物価指数(日銀 8:50) 7-9月期の法人企業景気予測調査季報(内閣府・財務省共管 8:50)	5Y 25,000億円 9/14発行	食料安定 供給借入 117億円 9/22借入		8月の米財政収支 8月の米消費者物価指数
9/14 (水)	7月の機械受注統計(内閣府 8:50)				8月の米生産者物価指数 8月の英消費者物価指数
9/15 (木)	8月の貿易統計(財務省 8:50) 7月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	TB1Y 35,000億円 9/20発行	20Y 12,000億円 9/16発行		英中銀MPC結果発表 8月の米小売売上高 7月の米企業在庫 8月の米鉱工業生産・設備稼働率
9/16 (金)	7月の石油等消費動向統計(経済産業省 13:30)	TB3M 56,000億円 9/20発行			9月のミシガン大消費者信頼感指数速報 8月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/12 (月)	800	▲ 17,300	▲ 16,500	国債買入 国債補完 CP買入 社債買入	7,200 ▲ 400 ▲ 200	300	6,900	▲ 9,600	TB6M発行▲40000償還27000 TB3M発行▲56000償還56000
9/13 (火)	500	▲ 500	0				0	0	
9/14 (水)	1,000	▲ 25,000	▲ 24,000	全店共通 貸出増加支援 CP買入	▲ 13,700 ▲ 10,700	4,000	▲ 20,400	▲ 44,400	源泉税揚げ 5Y発行▲25000
9/15 (木)	▲ 1,500	▲ 2,400	▲ 3,900				0	▲ 3,900	個人向け3Y・5Y・10Y▲2500 個人向け3・5Y償還600
9/16 (金)	▲ 500	▲ 9,000	▲ 9,500				0	▲ 9,500	20Y発行▲12000
週間合計	300	▲ 54,200	▲ 53,900	—	▲ 17,800	4,300	▲ 13,500	▲ 67,400	

9/12は日銀予想、9/13以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み最終週となり15日までは、相応の資金調達ニーズが予想されるものの、16日以降は新しい積み期間となる事から、レート水準の低下が予想される。

債券レポ市場は、積み最終週となるため資金ニーズの動向が注目される。

短国市場は、15日に1Y物、16日に3M物の入札実施が予定されている。また、13日に実施が予想される短国買入オペのオフア額は、1,000～5,000億円程度が見込まれる。

CP市場は、9月末が近づくなか、期越え物案件がどの程度膨らむのか注目される。

主要なイベントは、国内では、14日に7月の機械受注統計、海外では、13日に8月の米消費者物価指数、15日に英中銀MPC結果発表、8月の米小売売上高、16日に8月のユーロ圏消費者物価指数改定値などが予定されている。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまよう願ひ申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等を負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。